

平成 15 年度財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成 15 年 4 月 1 日から平成 16 年 3 月 31 日まで

1. 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続的発展が可能な社会」を目指した事業を推進する。

2. 事業計画

(1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 臨海部における環境回復・創造方策に関する調査・研究

臨海部は、古くから生産活動の用に供するために、海面の埋立が様々に進められてきた。この埋立により、水質の悪化、生物の生息環境等の生態系の変化、自然景観の変化、海とのふれあいの場・漁場の減少等多岐にわたる環境変化をもたらすこととなった。現在、環境の保全に対して、当初の水質改善等、公害対策中心のものから生物多様性の確保、健全な水循環の回復、リサイクルの推進、豊かな自然とのふれあいの場の確保など、環境創造を目指したものに变化してきた。そのため、臨海部でも 21 世紀に向けて、次世代に引き継ぐ良好な環境の回復・創造が強く望まれており、モデル地域におけるフィールド実験の実施等の調査研究を行う。

イ 環境技術開発等推進事業（実用化研究開発課題）－閉鎖性海域における最適環境修復創造技術のパッケージ化プロジェクト－（環境省総合環境政策局助成事業）

沿岸域における代表的な環境修復技術として、人工干潟、浅場、藻場の造成、底泥の浚渫・覆砂、礫間接触浄化や付着動物による生物濾過等が挙げられる。これらの要素技術については、一定の研究・開発が進められ、実用化が図られているところである。

しかしながら、実海域において環境修復を進めるためには、これらの技術をどのように組み合わせるかが大きな課題となっている。そこで、要素技術の最適な組み合わせ（ベストミックス）のための実用化研究開発を行うとともに、尼崎湾域を実証試験海域としてその効果的な環境修復と他の閉鎖性海域へ応用可能な環境修復技術のパッケージ化のプロジェクトを推進する。

ウ 御前浜水環境再生調査事業（兵庫県阪神南県民局委託）

大阪湾の阪神間において数少ない砂浜があり、ウォータースポーツや散策など市民の憩

いの場合となっている兵庫県西宮市御前浜は、水質・底質などの環境悪化が生じている。水環境の現状と課題を整理し水環境再生の具体的な方策を検討するため、基礎資料の作成等を行う。

エ 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 2003）開催

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 2003）は、平成15年11月日から21日まで、タイ王国バンコク市で開催される。このため設けられた国際組織委員会を支援し、EMECS2003を開催する。

オ 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議資料等作成事業（環境省水環境部請負事業）

第6回世界閉鎖性海域環境保全会議の開催に向けて、我が国の閉鎖性海域の環境の現状と環境保全に関する取り組みを紹介する資料（CD-ROM）の作成を行い、EMECS 2003参加者等に会議資料の一環として配布する。

カ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議論文集等発行事業

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議において発表され提出のあった論文について、「学術論文集出版のための編集委員会」を運営し、学術論文集として発行するため、所要の作業を行う。

キ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議フォローアップ事業

EMECS 2001において採択された神戸・淡路宣言で提案された課題及び得られた成果を持続的に発展させていくため、そのフォローアップとして次の事業を推進する。

① 閉鎖性海域における環境対策やモニタリング等について、兵庫県と共同してブラジル・パラナ州との環境協力を推進する。

② アジアフォーラムで提案されたアジア沿岸域の総合アセスメントの実現に向けて、アジア太平洋沿岸域環境白書作成のための運営委員会（Steering Committee）を運営するとともに、主執筆者の選定・依頼等所要の作業を行う。この作業は、EMECS2003の特別セッションであるアジア太平洋フォーラムの開催と連動させて実施する。

③ NGOフォーラムで得られた成果を将来に引き継ぎ、発展させていくために、閉鎖性海域において環境保全活動を行う住民団体、NGOなどの国内的、国際的な交流の推進及び行政・企業・研究者らとの連携を図ることを目的として、広範なネットワークとパートナーシップを構築するための事業を行う。

ク 閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用を目的とする学術的な会議等に対して、助成を行い、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させる。

ケ 国連大学グローバルセミナー北海道セッション開催協力

平成 15 年 8 月、札幌市で「水と環境と経済と」をテーマとして開催される国連大学グローバルセッション北海道セミナーに協力団体として参画し、プログラム委員の派遣、海外エメックス関係者の講師派遣等を行う。

(2) 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域環境情報システムの構築（環境省水環境部委託事業）

世界閉鎖性海域環境保全会議の発足等閉鎖性海域の環境保全に関し、主導的役割を果たしてきた我が国が、関係各国と連携をとりつつ閉鎖性海域の環境情報に係る国際的な情報ネットワークを構築し、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果、水質等の環境データ、社会経済データ等の情報検索が可能なデータベースシステムを整備し、インターネットを通じて、研究者、行政関係者等が活用できるものとする。

イ 世界の閉鎖性海域の環境データブック作成事業（総務省一寄附金付年賀はがきの寄附金一助成事業）

閉鎖性海域の環境問題を国際的な協調のもと解決を図っていくため、チェサピーク湾、バルト海など世界各地の代表的な閉鎖性海域を対象に、水質、景観、生物、人口や産業等沿岸域環境に関する多様な情報を収集、整理し、環境データブックを作成する。

ウ 情報収集・提供システムの運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うシステムの運用、管理の充実を図る。

エ 「誰でも参加一海のネット会議」の管理・運用

現在、(財)国際エメックスセンターが有する既存のホームページを活用し、閉鎖性海域の環境保全・創造のため、提案されたトピック（テーマ）に関し、情報・意見を有する市民、NGO、研究者、政策担当者など誰もが参加でき、直接に意見交換、情報交換を可能にするため構築された「誰でも参加一海のネット会議」を運用し、多様なセクターの関係者（誰でも）がある特定のトピックに関し、ホームページ上で討議（意見の書き込み、情報の掲示）を行い、意見のスレッド化を通じて、今後の海の環境保全・創造の取り組み方策の提言に資する。

オ エメックスニュースの発行

閉鎖性海域に関する情報交換を促進するため、投稿論文、第 6 回エメックス会議の準備状況、会議開催結果、閉鎖性海域環境保全団体の紹介、関連国際会議開催情報等を掲載した機関紙「エメックスニュース」を発行する。

また、電子メールによる配信を行う。

カ 地域担当者によるエメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて人的ネットワーク構築のため、過去にエメックス会議を開催した地域に地域担当者を整備し下記活動を依頼する。

- ①地域の専門家のネットワークの形成・維持の活動
- ②環境の現況・環境教育実施状況など地域環境情報の収集・提供
- ③エメックス活動のPR

(3) 普及啓発・人材育成事業

ア 海洋環境体験学習事業（日本財団助成事業）

瀬戸内海等の閉鎖性海域の中で、環境質の高い水域と劣化の著しい水域、歴史・風土性を感じることでできる水域、希少な生物の保護活動、環境保全活動の先進地を実際に訪ねるとともに、水質の測定方法、生物観察方法、生態系の評価方法など水域環境の評価方法等を指導するセミナーを平成13、14年度開催してきた。この海洋環境体験セミナーを通じて得られた成果を発展させ、海の環境教育を通じて閉鎖性海域の環境保全を図る方策を考えていくためのシンポジウムを、環境教育に関係する有識者、教育者、市民、行政等を交えて開催する。また、このシンポジウムの結果やこれまでのセミナーの成果等を取りまとめ、海洋環境体験学習を効果的に行うためのフィールドガイド等のテキスト及びCD-ROMを作成し、関係者に配布する。

イ 尼崎海域における実践環境教育プログラムの推進（日本財団助成事業）

環境技術開発等推進事業（実用化研究開発課題）－閉鎖性海域における最適環境修復創造技術のパッケージ化プロジェクトで造成した干潟・磯・石積み閉鎖性干潟・エコシステム護岸を活用して自然を喪失した大阪湾奥部の尼崎で、阪神間の小中学生等を対象に研究と教育の統合化を図りつつ、海の機能、浅場の機能／役割、大阪湾、尼崎湾の現状、海の生物について知る、触れる、考えることができるようなプログラムを作成し、本プロジェクトに関わる我が国第一線の研究開発者をコアにした実践的な環境教育活動を行う。

ウ 閉鎖性海域の環境管理技術研修（国際協力事業団（JICA）委託事業）

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域管理技術研修」を実施する。

エ 体験的環境学習（仮称「海の自然教室」等）事業（兵庫県委託）

兵庫県家島において、子どもたちが漁業者や島の古老等から島の歴史、環境、文化等について自主的な体験的取材により学び、その体験を話し合う中で、島の環境や生活について

てより深く理解していくプログラムを実施する。また、このような交流体験の発表や提言等をまとめた記録集を発行する。

オ 環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報の発信のため、環境イベント等に出展を行う。